

明治 27 年 4 月 25 日午後 11 時頃、塩焚き小屋にいた羽生嘉助氏は真っ暗な沖の方から探照灯を照らし、花火を打ち上げて来る異様な大船を発見しました。驚いた羽生氏は、急いで真所集落に帰り、ホラ貝を吹いて集落民に知らせました。それから打ち寄せられてきた船を調べさせましたが、言葉が通じなかったため、村長に使いを出すとともに、荃南小学校の伊地知茂七先生を呼んで、この船のことを筆談で調べてもらいました。その結果、全長約 95m、幅約 11m、4 本柱で 3 段張りの大きな帆船は、イギリスのドラメルタン号という船であることがわかりました。

船は上海から香港へ行く途中で暴風雨に遭い、前之浜に漂着したのです。船底がかなり破損しており、その修理のため西之表を経由して、長崎の造船所に向かうことになりました。その間（6 月 16 日までの約 2 ヶ月間）、乗組員 29 名は真所集落にとどまり、厚いもてなしを受けたといいます。そして、そのお礼としてもらい受けたのが、船内に食糧用として飼っていた 11 羽の鶏、インギー鶏です。名前は、当時イギリス人のことをインギーと呼んでいたことに由来します。原産地は中国南部で、現在は種子島だけに原種が残る珍しい鶏です。

ドラメルタン号 漂着之碑は、言葉や風習の違いを越えて交流した人々の心温まる物語を、永く永世に伝えるために建立されました。



ドラメルタン号漂着之碑（昭和 47 年 6 月建立）



インギー鶏